

第3回久米島ビジョンラボ結～島ぬ3時茶あ会議～まとめ

■開催日程__令和7年6月5日13:30～15:30

■参加者__16名（グループ①4名、グループ②4名、グループ③4名、グループ④4名）

■第3回ワーキングの狙い

- 持続可能な島づくりに向けて、SDGsの観点から久米島の課題を整理する
- 持続可能な島づくりに向けた課題に対し、解決方策について考える
- 解決方策は、第3次総合計画の施策アイディアとして、計画立案に反映する

■久米島らしい持続可能な島づくりに向けた考察（SDGsの3側面+その他の視点から）

久米島町においては、地域らしく持続可能な島づくりが重要である。第3回職員ワーキングでは、SDGsの17ゴールに紐づく169のターゲットに関連付け、久米島町の課題を抽出し、解決策を検討した。職員WGの検討を「環境」「経済」「社会」の3側面に分類し考察する。

環境的側面

- 海洋環境の視点（ターゲット14-1）では、海域への赤土流出やごみ漂流、排水環境が課題とされた。解決策として排水環境の改善（インフラ整備）や労働力削減・作業効率化を図るロボット活用が提案された。
- 自然保護の視点（ターゲット15-7）では、島内では動植物の密猟やクメノサクラの盗難が発生しており、町民の自然保護意識の低さが課題とされた。これに対し、自然保護に関する教育・広報の強化や罰則など環境保全・保護に向けたルールや体制整備が必要とされた。
- 生態系の視点（ターゲット15-8）では、外来植物の繁茂で農地や住宅に悪影響を及ぼしており、農家の高齢化を含め対策の困難さが課題とされた。専門家による講話や被害シミュレーション、被害防止・軽減に関する周知徹底などが効果的とされた。

経済的側面

- 労働環境の視点（ターゲット8-2）では、人口減少や高齢化による人手不足が問題となっており、人材確保及び所得向上が課題とされた。ダブルワークやAI活用、情報インフラの整備など、多様な働き方やデジタル技術の導入・有効活用が解決策とされ、柔軟な働き方への転換、地域に定着する若年層確保を推進することが求められた。
- 観光振興の視点（ターゲット8-9）では、通年型観光のイメージが乏しく、地域資源の活用不足、観光関連業就労に対する悪い印象が課題とされた。自然・歴史資源を活かした観光開発や、行政・事業者・住民と連携した共創型観光への展開により、滞在日数や消費額を高め「稼げる観光関連業」が望まれた。
- 観光への貢献の視点（ターゲット12-b）では、産業振興の担い手不足、農作物や水産

物の地産地消が十分に出来ておらず、観光への貢献が進んでいないことがあげられた。

社会的側面

- 医療・健康の視点（ターゲット 3-d）では、健康診断の受診率の低さ、日常的な運動環境の不足が課題とされた。健康診断の重要性の周知や運動促進イベントにより、住民の行動変容が求められた。
- まちづくりの視点（ターゲット 11-2、11-3）では、公共交通では路線の少なさや高齢者・買い物弱者の移動手段の確保及び配慮が課題とされた。将来のまちづくりの展開として、公共交通の自動運転の導入、公共施設の集約化、コンパクトなまちづくりが重要とされた。

その他（横断的側面）

- 産業基盤・技術革新の視点（ターゲット 9-4、9-a、9-b）では、情報インフラを含めた社会基盤の整備、久米島ならではの特産品を活用した新たな価値の創出が求められた。
- 消費と生産の視点（ターゲット 12-1）では、島内生産品の消費に向けて観光関連業（飲食事業者）の意識改革が必要とされた。また、訳あり商品（出荷できない野菜など）を如何に消費するかが課題とされ、情報発信等で消費を促すことが求められた。
- エネルギーの視点（ターゲット 7-2、7-a）では、海洋深層水を活用した「久米島モデル」は国際的に評価されている一方で、島内での認知が不足しているとの指摘があり、国内外への情報発信や大学との共同研究による海洋深層水の利活用の推進が課題とされた。また、ごみ焼却施設からの排熱利用も期待されている。

グループ① 久米島らしい持続可能な島づくりのための課題・解決策

ゴール	重要なターゲット	課題	解決策
15. 陸の豊かさを守ろう	15-7) 密猟や違法取引を、そろそろ撲滅しよう	● 島の動植物の密猟や違法取引が続いている ● クメノサクラの盗難被害が発生している ● 町民の関心が低い	● 違法行為の問題点を周知し、教育や広報を行う ● 罰則や監視体制、ルールを整備 ● 情報発信を強化する ● 町民のモラルや自然保護意識を高める
	15-8) 外来種の侵入を防ぎ、地域の生態系を守ろう	● 根本的な対策の見通しが立たない ● ツル植物が畑や道路、民家に広がっている ● 農家の高齢化が進んでいる	● 専門家による講話で対策や注意点を共有する ● 被害が拡大した場合のシミュレーションを示し、危機意識を高める ● サツマイモの例のように、広報強化期間を設けて周知を徹底する
8. 働きがいも経済成長も	8-2) 多様な働き方や技術革新を通じて、経済生産性を向上しよう	● 町民の所得がなかなか上がらない ● 人口減少と少子高齢化で人手が不足している ● Wi-Fi 環境の整備が必要	● 多様な働き方を受け入れるための事業所向け教育を進める ● AI の導入方法を事業所などに広く普及 ● チャット GPT やマサル君の活用が業務効率化に役立っている事例を共有する ● 技術革新は専門家や委託先から学ぶ ● ダブルワークなど柔軟な働き方への転換を促す ● 若年層の人材確保を図る
	8-9) 雇用創出など、地域の未来につながる観光業を推進しよう	● 世界的に注目される海洋深層水の「久米島モデル」をもっと周知すべき ● DMO の運営安定化と人材確保 ● 観光業に「楽しく安定した仕事」というイメージが乏しい ● 通年で楽しめる観光地という印象が弱い ● 滞在期間が短く、島の資源が十分に観光に活かされていない	● 自然や歴史などの地域資源を活かした観光開発を進める ● 祭りやイベントを最大限に活用し、久米島の魅力を発信する ● 行政・事業者・地域が連携した共創型の観光を実現する ● 滞在日数と観光消費を増やし、稼げる観光を目指す



グループ② 久米島らしい持続可能な島づくりのための課題・解決策

ゴール	重要なターゲット	課題	解決策
3.すべての人に健康と福祉を	3-d) 全世界で健康リスクに早く気づき、改善できるようにしよう	● 健診の受診率が低い ● 病院嫌が多い ● 専門医が常駐していないため、診療まで時間がかかる ● 若くして介護される状態・死亡が多い ● 島では必要な医療が受けることができない ● 島で手に入るものが限られる ● 日常的に運動できる環境が必要	● 体験談にのせる ● 受診する事のメリットを知らせる ● パークゴルフの日！大会！（参加したら野菜プレゼント） ● 親子スポーツ大会（親を連れて来る…） ● 運動する時間を設けるプチイベントを企画する
12.つくる責任つかう責任	12-1)「持続可能な消費と生産に関する10年計画枠組み」を実行しよう	● 観光業の個々の情報発信力をもっと必要 ● 飲食事業者のモチベーションをあげる ● 一部しか潤っていないと思われるがち ● 観光業への町民関心度が低い ● 観光事業者の積極性欠ける ● 疑問：島にお金が落ちる（ホテルとか） ● 年間通して差がある ● 傷ついただけで売れない野菜がある	● ラインで発信（アピール！）
	12-b) 観光業の地域への貢献度を、見える化する手法を開発しよう	● 産業振興の担い手が少なくなっている ● 豊作物、水産物の地産地消が十分に実践されているか ● 担い手不足	● 農業サポート（農サポ）を作る



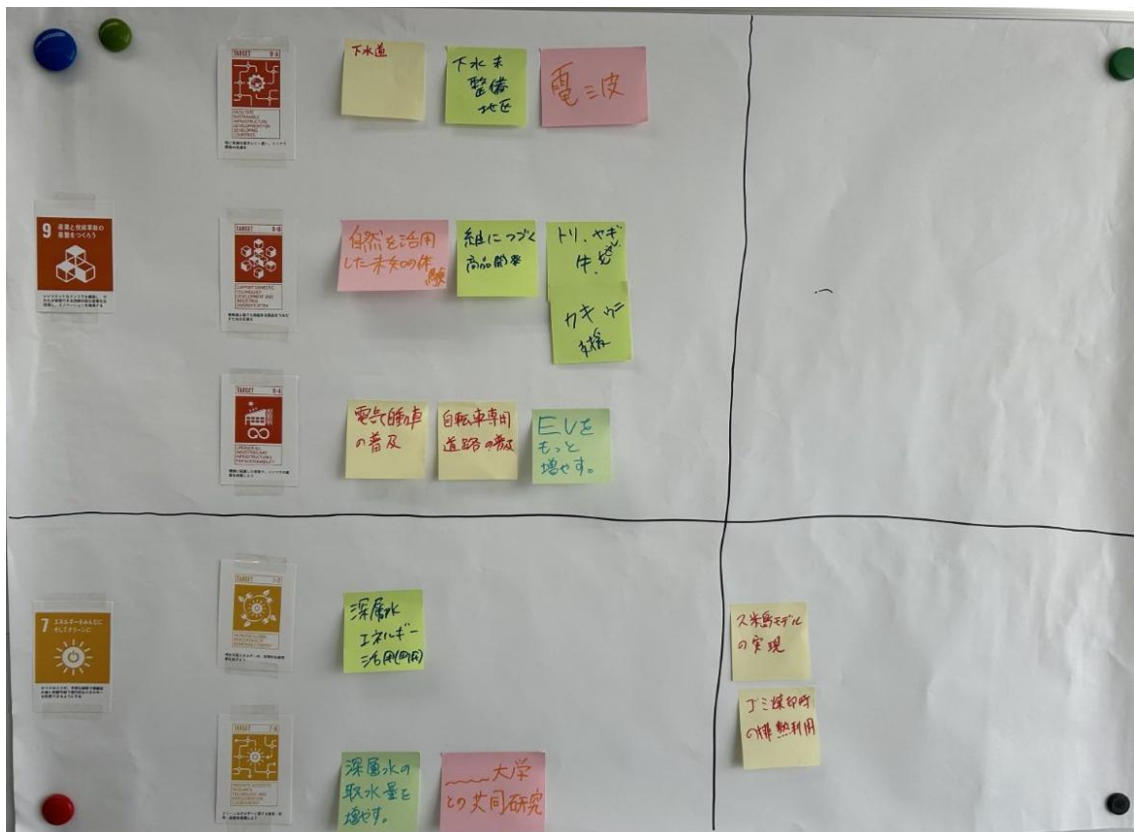
グループ③ 久米島らしい持続可能な島づくりのための課題・解決策

ゴール	重要なターゲット	課題	解決策
11. 住み続けられるまちづくりを	11-2) 誰もがどこでも行けるように安全で手ごろな公共交通機関を 11-3) あらゆる住人とその未来を見据えた、計画的な都市開発を	● 路線バスの系統が少ない ● 運転手が足りない ● 買い物弱者が増えている ● 居住と観光客の望むルート・路線が合わない ● タクシーの料金が高い ● 公共交通機関の充実性 ● ユニバーサルデザインへの対応 ● 車を持たない高齢者の移動手段が課題	● 地域意識をやわらげ、島全体での計画・開発 ● 無人販売機の設置 ● バス運転手の待遇を上げる ● 自動運転の実用化を進める ● 「地域＝字」ではなく、「地域＝久米島」で考える ● 公共施設の集約化 ● コンパクトで多機能な施設計画
14. 海の豊かさを守ろう	14-1) 海への流れるゴミを減らし、これ以上の海洋汚染を防ごう 14-2) 海の生態系を保護し、自然の回復力を取り戻そう	● 生物と植物の保護の両立 ● 流出するゴミと流入するゴミの対策 ● 赤土流出の防止 ● 海洋プラスチックごみ ● 不法投棄の対策 ● 国際レベルでの対策が必要となる ● 島内での海洋ごみの処理能力の不足 ● 生活圏域から川や海への流出問題 ● 下水道や排水路の整備不足	● ほどよい間引き ● 赤土流出対策の強化 ● 下水道の 100%整備（がんばれ 上下水道課） ● 海洋ゴミ回収ロボットの開発 ● 海洋ゴミ分別ロボットの開発



グループ④ 久米島らしい持続可能な島づくりのための課題・解決策

ゴール	重要なターゲット	課題	解決策
9. 産業と技術革新の基盤を作ろう	9-4) 環境に配慮した技術で、インフラや産業を改善しよう	● 電気自動車の普及 ● 自転車専用道路の整備	
	9-a) 特に支援の届きにくい国へ、インフラ整備の支援を	● 下水道（下水未整備地区など） ● 電波	
	9-b) 開発途上国でも価値ある商品をうみだすための支援を	● 自然を活用した未来の体験 ● 紬につづく商品の開発 ● トリ、ヤギ、牛、もやし、カキ、カニなどの活用	
7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに	7-2) 再生可能エネルギーの、世界的な使用率をあげよう。	● 海洋深層水エネルギーの活用	● 久米島モデルの実現
	7-a) クリーンエネルギーに関する研究・利用・投資を促進しよう	● 海洋深層水の取水量を増やす。	● 久米島モデルの実現 ● ゴミ焼却時の排熱利用 ● 大学との共同研究



■集合写真

